



発行日	平成30年1月20日
田村病院ニュース	第131号
発行責任者	木下定子
編集責任者	浦田雅弘

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

今年の干支は“戌”ですね。ところで皆さん日本の固有種の犬はどれくらいあるか知っていますか？6種類で、ハチ公で有名な秋田犬をはじめとし、甲斐犬、柴犬、四国犬、北海道犬、紀州犬があり、いずれも国の天然記念物指定となっているそうです。

戌年の意味はいくつかありますが皆さんもよくご存じのように”安産“があり、お産には”吉“の年となります。これは新たに何かを産むという意味もありますので、スタートの年としても良いのではないのでしょうか。



## 変革 並立

新聞の医療の欄などに“診療報酬の改定”と書かれているのを目にしたことはないでしょうか。そもそもこの“診療報酬”とは何なんのでしょうか？これは文字通り保健医療機関が実施した診療に対する報酬で、これは全国一律です。そしてこの診療報酬が設定する報酬は大別すると①診察や診断、手術手技など「技術、サービス」の価格を設定する技術料の評価と②医薬品や医療機器 といった「物」の価格を評価する薬価基準・材料価格基準に大別され、いずれも2年に一度を原則として、価格全般の見直しを行っています。

今年初めての朝礼は小島外来部長（前リハビリ部長）よりこの診療報酬に関連したお話がありました。

「皆さんあけましておめでとうございます。平成30年は診療・介護報酬・障害福祉サービスのトリプル改定の年です。診療報酬の改定では我々の進むべき道筋が示されることになるので、情報が入れば皆さんにも発信していきたいと思います。

さて今、当院は変革の時を迎えています。我々に求められているのは専門職としての専門性です。そしてそれを活かしたチーム医療、それを成し遂げるためのクリニカルパスを進めていかなければなりません。「入院医療中心から地域生活中心」という政策理念をより強力に推進することが明確化されました。そこで、精神科リハビリの重要性を再認識するとともに、看護・作業療法・心理・ケースワーカーのそれぞれの専門性に特化したプログラムを



構築し、リハビリテーションが病院の一つの柱として機能するよう頑張っていきたいと思  
います。」といった内容のお話でした。

朝礼の中での部長のお話には、これから先自分たちが取り組んでいかなければならない  
ことが明確に織り込まれていました。「今は“良質な医療”を提供していれば病院は成り  
立っていましたが、医療制度の改革や医療費抑制が進む中、良質かつ効率的な医療の提供が  
求められてきます。良質とは全ての人が納得し満足するというので、これを継続して提供  
していくには専門性に磨きをかけていかなければならないんですよ。」と、部長からの発信  
と受け止めました。

## 病院掲示板

**新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。**

朝礼でお話があったように、病院の改革の時を迎えました。大勢で仕事をする  
場合、各自が勝手に行動すると結果のぼらつきが大きくなり、質も効率も悪くな  
ります。この時点で最も優れた方法を“標準”として取り入れ、それに沿って行  
動する行動原則になります。それと「正しいこと」を「正しい方法」で「正しく  
行う」ことが医療安全へとつながります。このことを再認識し、専門性を磨いて  
いくのですが、その前に企業の大元、田村病院の病院理念・方針を全職員が肝に  
銘ずることです。

各部長は院長指示の下、職員教育、人材育成に取り組んでいます。そしてもう  
一方で理事長指示の下、“設備管理の標準化”を目指すべく施設設備管理を今一  
度見直すとともに、患者さんや職員の安全を守るために防災対策の見直しも同  
時進行で行います。

平成30年は病院にとって大きな節目の1年になると思います。これまで以上  
に良質な医療を提供できるように、皆さんに納得していただけるように努力し  
てまいります。

＝編集後記＝

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

「犬は喜びに庭かけまわり…」と、私は正月から海に出かけてきました。強風？爆風？台風？と思  
うような風の中、ただただ寒さに耐え忍んで頑張っはみたものの、釣果は0。お土産は洗濯物オンリ  
ー！妻は「あら～、残念！洗濯物あげがとう。寒いのにこたつでれくなってたらいいのにな～」と。

くっそ～、いまにみておれ！！

